



例年、寺前はたくさん屋根が並び、当寺が隠れていましたが、今年
は広場が工事中の為に1軒だけとなり、開放的なお正月でした。良い雰
囲気でしたが、来年は元に戻るのでしょうか。何かナイスアイデアを考
えてみますが、皆様からのアドバイスもお待ちしています。

改めて考えてみる 良啓

今や、完全に市民権を得たと思いますが、まとめて法事を行う繰上
法要や、海洋散骨について一言申し上げます。

どちらも、終活を意識し出した団塊の世代を中心に人気が高く、
希望する方が後を絶ちません。

「法事は大変だから、子供に負担を掛けたくない」

「大好きな海に遺骨をまいて欲しい」

理由は様々あります。一方、残された家族のお気持ちは

「繰上法要しましたが、もうすぐ本来の法事の日です。何かしなく
て良いですか？」

「大好きだった祖母の墓参りをしたいが、散骨した為、墓が無くて困
っています。」

この様な相談も急増しています。

法事や墓は、故人に関する事ですが、同時に家族や命のつながりに
も関わるものです。どちらの気持ちも同じ方向を向いていたら、問題は
無いと思いますが、違った場合、難しい状況になります。

やはり、その時に重要なことは、日頃のコミュニケーションではないでし
ょうか。お互いの意見を尊重し、一方的ではなく、どちらの気持ちも排
除しない多様性があるべきだと思います。

先日は、直葬（火葬のみ。供養無し）を選択した遺族から、本人が安
心して成仏出来たのか不安です。と相談がありました。

現代のハイスピード社会から見ると、伝統的な儀式は煩わしく映ると
思いますが、そこには、丁寧な心の在り方が込められた豊かな精神性
も内在しています。

さて、皆さんは、何に重きを置きますか？

桜

寺務員 伊計

正月も過ぎ、沖縄県各地で桜の開花情報を

聞くようになり、春の訪れが段々近づいてきました。

今回は「日本最年長の桜」について紹介しようと

思います。

桜の時期という事で、一度興味があり神社やお寺で咲いている桜について

調べていたところ、「日本最年長の桜」というワードが目に入ってきました。

詳しく調べてみると、その桜は山梨県にある寛相寺に咲いている「神代桜」

じんたいざくら
やまとたけるのみこと

というエドヒカン種の古木でした。日本武尊が東国への遠征の際、立ち
寄った記念としてこの地に植えたと伝えられており、樹齢は約2000年と

いわれているほど。2000年という樹齢が桜の歴史とともに、日本の歴史

の長さを物語っているようで、想像を超すような雄大な時の中を、神代桜は
生きてきたのだと感じます。また画像でみるだけでもその大きさ、思わず立

ち尽くし見上げてしまう圧倒的な美しさや儚さが、桜がなぜ春の象徴として

昔から日本人の心に在るのかを物語っているように感じました。いつか実際
に訪れ、その神代桜をこの目で見てみたいものです 😊

また、桜は神社やお寺に植えられていることもあり、名所となっている所
も多いので、神社やお寺、行く先々で様々な桜と出会うのも旅やお出かけの
楽しみではないかと思えます。

まだまだ寒暖差のある寒い時期が続きますが、皆様お風邪などを召され
ませんようご自愛ください。

